

【第 27 回パラグアイ便り】



80周年記念事業のフィナーレ

《 日本祭：日本文化と食の祭典 》の開催 と パラグアイ上院における《 日本人移住社会への感謝決議 》

【1】 《日本祭》の開催

2016年10月15日(土)、アスンシオン市内の競馬場“パラグアイ・ジョッキー・クラブ”に1万8000人もの観衆が集まり、《日本文化と食の祭典：日本祭》が夕方5時から深夜まで開催されました。



(写真上：日本祭のポスター)

ヶ所のスタンドが用意され、そこで日本食、パラグアイ食、色々な物産品や記念品などが販売されましたが、とくに和食コーナーには終始まで長い行列ができ人気を博していました。

(写真右：2万人近くの観衆が集まった当日のジョッキークラブの空撮写真。)

1936年、首都アスンシオン市から130キロ東南に位置するパラグアリ県ラ・コルメナに最初の日本人移住者が入植し、言葉も習慣も全く異なる環境の中で土地を開墾し、懸命に働きながら今日の日系社会の礎を築きました。今年2016年には、パラグアイ日系社会は移住80周年祝賀行事として1年間にわたり多くの祝賀行事やイベントを実施し、【本パラグアイ便り】でもその幾つかを紹介してきましたが、いよいよ関連事業はこの祭りでフィナーレとなります。

当日はアスンシオン市内の競馬場にコンサート用の大舞台が設置され、また広場の真ん中には盆踊りの櫓が組まれました。また会場の周囲には80



入場料約 500 円で一般観客を対象にした祭でしたが、夜遅くまで各種のイベントが繰り広げられ、日系社会で盛んな和太鼓演奏、地元愛好家のコスプレショー、観衆全員参加の大盆踊り大会のほか、東京練馬区で同日に行われた恒例の「パラグアイ・フェスティバル」(【第 16 回パラグアイ便り】参照)を大画面を通じて同時中継するなど様々な企画で盛り上がります。さらに、日本の若手人気グループ“KAO=S”が来演し、剣舞や三味線などを取り入れた日本の伝統音楽に現代的なロックを融合させた独特の音楽を披露し、会場が熱気に包まれました。またアルゼンチンのテレビ番組でも有名な「農林水産省・日本食普及の親善大使」である大野剛浩シェフの和食ショー、さらにパラグアイ都道府県人会連合会主催の「日パ交流展」での日本各地の物産や名所などを紹介するコーナーも好評でした。



(写真左：大舞台でのショーに熱狂する聴衆)

またこの大規模イベント運営に当たり若者たちのボランティアグループがエコ忍者の法被を着込んで「ゴミ・ゼロ運動」を展開し、見事な実績を上げました。まだまだ投げ捨て文化が抜けきらない当地ですが、この啓発運動も大いに話題となりました。

この《日本祭》の狙いは、80 周年事業の最後に、再度パラグアイ社会に向けて日本文化や日系社会をアピールし、日本人を仲間として受け入れたパラグアイの人達への感謝と喜びの念を伝えることでした。また、人生の模範を示した初期の移住者への尊敬と敬愛の気持ちを末永く思い起こせるように、次世代の若い日系人に対する贈りものとしての意味もこの祭りに込められています。



(写真：《日本祭》に関する観光庁・実行委員会・大使館共同記者発表会におけるエコ忍者の紹介風景と当日活躍するボランティア・グループ)

パラグアイの日系人は約一万人ですが、この祭りの夜にはその倍近くの観衆がパラグアイ人自身のイベントとして心より楽しんでおり、日系社会がパラグアイ社会にごく自然に溶け込んでいることがよく実感できました。



(写真：会場内における移住者出身県の物産展。左から、新潟、香川、兵庫の各県物産展スタンド)

なお当地メディアも注目して、前々日の朝の TV 報道番組に本使と実行委員会副委員長を招き、《日本祭》の意義や内容についてのインタビューを生放送しました。また《日本祭》翌日の全国紙にも大きく報じられ、パラグアイ社会の関心の高さが窺えました。このように、先般の眞子内親王殿下のご来訪や、それ以前から各種のイベントを通じた息の長い活動の掉尾を飾る素晴らしい祭りとなりました。



(写真左：翌 16 日全国紙朝刊の写真と記事。写真右：TV 報道番組での《日本祭》を紹介する本使と椛垣副委員長。)

【2】 パラグアイ上院における《日本人移住社会への感謝決議》伝達式

本《日本祭》に先立つ10月13日朝、パラグアイ上院において『パラグアイ日本人社会が国家発展・繁栄へ貢献したことに對する感謝決議』の伝達式が行われました。



(写真：パラグアイ上院による『日本社会への感謝決議』伝達式の模様を伝える新聞記事。左から、アマリージャ上院議員、ウィエンス上院議員、本使夫妻、前原連合会会長、アセベド上院議長、檜垣実行委員会副委員長、ルゴ上院議員・元大統領)

であり、次第に盛り上がってきた祝賀ムードが内親王殿下のご訪問で一層高まったことが分かります。また、本決議が、現在も有力議員である、左派のルゴ元大統領も発起人の一人となっている超党派の決議であることを考えると、日系社会にとってその意義は計り知れないものがあります。

このような日系人社会による当国での多大な貢献が、「親日国」というありふれた言葉では尽くせない、当国独特の親愛に満ちた対日感情の背景にあることを改めて強く認識させられました。

本式典では、前原日本人会連合会会長に決議文を刻んだプレートが、本使には同決議文写しですが、それぞれ上院議長から贈呈されました。

今回の80周年事業ではパラグアイ側主催イベントも多く実施されましたが、その一例として、5月31日に開催されたパラグアイ下院での80周年記念大規模式典については【第23回パラグアイ便り】で紹介しています。

今回の上院決議は、アセベド上院議長が9月9日眞子内親王殿下ご臨席の祝賀会に出席した後の9月22日に採択されたもの

(上田善久 大使館 2016年10月)